

1. 事業概要

- 《目的》 社会運動に関係する資料収集・研究および企画展・セミナーの開催、定期刊行物の購入とその閲覧を行う。
- 《対象》 一般の方誰でも可とした。
- 《期間》 4月1日から3月31日まで。
- 《財源》 自主財源から拠出した。
- 《資産》 ヒューマンワーくびあ徳島
- 《人員》 専従職員および臨時職員が従事する。
- 《案内》 チラシを作成して館内に掲示し、ホームページに告知掲載した。
- 《内容》 (1)資料の収集と保全
(2)定期刊行物の収集・購入と閲覧
(3)公開講座・セミナーの開催
(4)企画展の開催
(5)社会運動に関する調査・研究
(6)研究会の開催
(7)社会運動関係団体との連携並びに協力・協働
(8)その他、目的達成に必要な事項

2. 運営委員会

1) 第11回運営委員会

◇日時 2019年5月7日(月) 18:00～

◇場所 ヒューマンワーくびあ徳島5F大ホール

◇出席者 久積(センター長)、島(連合徳島)、川越(労福協)、杉本(ネットワーク)、好野(平和センター)、岡田(賀川記念館)、辻、中野、乾(AWA女性)、東條(ストップDV)、齒朶山(解放同盟)
藤原(法人理事長)、福本、佐伯(以上、事務局員)

2) 第12回運営委員会 2019.11.16

◇日時 2019年11月16日(土) 12:45～

◇場所 ヒューマンワーくびあ徳島5F大ホール

◇出席者 久積(センター長)、島(連合徳島)、川越(労福協)、杉本(ネットワーク)、辻、中野、乾(AWA女性)、
藤原(法人理事長)、福本、佐伯(以上、事務局員)

3) 第13回運営委員会

◇日時 2020年4月20日(月) 18:00～

◇場所 ヒューマンワーくびあ徳島5F大ホール

◇出席者 久積(センター長)、島(連合徳島)、川越(労福協)、杉本(ネットワーク)、好野(平和

センター)、岡田(賀川記念館)、辻、中野、乾(AWA女性)、東條(ストップDV)、菌朶山(解放同盟)
藤原(法人理事長)、福本、佐伯(以上、事務局)

3. 公開講座及びパネル展

1) 第13回公開講座 (2019.6.1)

部落史関連講座(3) 「徳島の被差別民と芸能文化—阿波の箱まわしを中心に—」
辻本一英 氏 (芝原生活文化研究所)



とくしま社会運動資料センターの第13回公開講座を、6月1日、ヒューマンわーくびあ徳島にて開催しました。労働福祉会館の会員団体の他、資料センターの運営委員、関係者など46名が参加しました。

冒頭、藤原理事長より「辻本さんは1970年代から阿波木偶箱まわし保存会を立ち上げ研究を重ねて来られました。本日同行している保存会副会長の南さんも90年代から伝承活動を続けておられます。この貴重な芸能が部落差別によって無くなった、そのことを決して忘れてはならない、という事を念頭に置きながら本講座を聞いて頂きたい」と挨拶がありました。

本講座は部落史連続講座の一つであり、今回は芝原生活文化研究所の辻本一英氏に、「徳島の被差別民と芸能文化」と題して、三番叟回しや箱回しの歴史、被差別部落との関連について語って頂きました。辻本先生は、徳島県指定無形民俗文化財に指定されている阿波木偶「三番叟まわし」、その他、阿波木偶「箱廻し」、阿波木偶「えびすまわし」「大黒まわし」などについて、豊富な写真を交えて詳しく解説され、「被差別部落の文化芸能がどういった役割を果たしたのか、悉皆調査を行い、専門家を交えて検証すれば見えてくる」と述べられました。レジュメには阿波木偶「三番叟まわし」「えびすまわし」の回壇先が地図上にドットプロットされた貴重な調査データも附されていました。また演台の前には、当時の芸人が使用していた諸道具一式やご祝儀帳などが展示され、会場周囲には、徳島から全国へと伝播した人形芝居座の写真パネルが並べられました。

質疑応答後、久積センター長より「全国津々浦々に幸せを届けた箱回し。正月に三番叟で頭を撫でられ、元気になれる、勉強が出来るようになれると言われ、頭を撫でて頂いたおかげで今日の文化がある。生活、社会の変遷をしっかりと見つめ直しながら、次の世代に向かっていくことが必要かと改めて感じました」と締めくくりの挨拶がありました。

2) 第14回公開講座 (2019.9.7)

部落史関連講座(2) 「徳島から見た近代の部落史研究」 関口 寛 氏 (四国大学)

「聞き取り調査報告」 中野 輝行 氏（資料センター）



とくしま社会運動資料センターの第 14 回公開講座を、9月7日、ヒューマンわーくびあ徳島にて開催しました。労働福祉会館の会員団体の他、資料センターの運営委員、関係者など 47 名が参加しました。冒頭、藤原理事長より「本講座は部落史講座としては 3 回目の開催。センター内で行っている部落史に関する定期協議は 20 回の一区切りとなり、今後は社会運動史研究会として活動を続けていきたい」と開会の挨拶がありました。

講座は2部構成となっており、はじめに四国大学経営情報学部の関口寛准教授より「徳島から見た近代の部落史研究」と題して約 1 時間の講義をして頂きました。関口先生は、部落差別の起因を「前近代」に求める「封建遺制論」を疑問視し、差別事象の「近代性」に着目した考察について述べられました。題材として近代日本を代表する知識人であり、徳島出身の喜田貞吉、鳥居龍蔵、賀川豊彦を採り上げ、彼らの業績を通して部落問題との接点、近代の部落問題の特質について話して頂きました。とりわけ喜田貞吉と鳥居龍蔵については、それぞれ歴史学、人類学という異なった研究方法により部落問題を認識したこと、両者がお互いの研究を意識していたことなどに触れられました。

次に中野運営委員より、センター内に設置している部落史資料作成に関する協議における成果発表がありました。解放同盟徳島県連の元委員長や徳島県教組の元書記長など、60 年代後半までに徳島の解放運動に関わった人達を中心とした聞き取り調査を報告し、その関連資料などについて説明がありました。中野運営委員は、現在センターにて部落史・社会運動史の年表作成にも取り組んでいます。

質疑応答の後、久積センター長より「社会運動資料センターは今年度より新運営委員体制となった。11 月に予定している第 15 回公開講座の他、パネルや映像による企画展の開催、機関誌の発行、新たに設置された社会運動史研究会など、様々な事業活動を行い、社会に発信していきたい」と閉会の挨拶がありました。

3) 第 15 回公開講座(2019.11.16)

社会運動史関連講座(1)「徳島における戦後社会運動の特徴」 久積 育郎 氏(資料センター)

社会運動史関連講座(2)「徳島における戦後の教職員組合運動」 生駒 佳也 氏(徳島県立図書館)



とくしま社会運動資料センターの第15回公開講座を、11月16日、ヒューマンわーくびあ徳島にて開催しました。労働福祉会館の会員団体の他、資料センターの運営委員、関係者など43名が参加しました。1コマ目の講座では、当センターの代表を務める久積センター長が、徳島における主な労働運動として、親企業の雇用責任を認めた船井電機判決、総評・全金からの脱退に抗した光洋精工の闘い、研究者が立ち上がって薬害を止めた大鵬薬品労組の闘いを採り上げ、その闘いの足跡を話しました。とりわけ大鵬薬品労組の闘いについては、全国闘争へと拡がり全面和解勝利に終わったこと、その社会的成果として発がん性試験の義務化、医薬品申請データの公開、薬事法の改正が行われたと述べました。さらにはアジアスワニー労組支援の闘いの他、市民運動としてラジオ商殺し冤罪・再審闘争、蒲生田原発建設阻止の闘い、森永ヒ素ミルク中毒事件、吉野川第十堰の闘いなど闘争の歴史を振り返り、後世に遺す意義について話しました。

2コマ目の講座では、徳島県立図書館の生駒氏が徳島における教職員組合運動について講じました。戦後の労働組合法施行による教員組合の結成、日教組の結成、そして勤評闘争(=教員に対する勤務評定反対闘争)から教員組合の分裂までを詳しく解説し、戦後民主主義の敷衍と学校教育、教員組合の関連性を述べました。勤評闘争と教員組合の分裂については、徳島県教組の結成から分裂までを中心としながら、愛媛県勤務評定の実施から京都における勤評闘争に至るまで話しました。資料には徳島県教組が分裂した1959年当時の新聞切り抜き、日教組加入率を集計したグラフなどが附され、当時の様子が伺えました。

4) 第6回パネル展(2020.1.23-30)

『吉野川第十堰の可動堰化計画と住民投票』



1月23日(木)から1月30日(木)までの間、『吉野川第十堰の可動堰化計画と住民投票』と題した第6回のパネル展をヒューマンわーくびあ徳島5F大ホールにて開催しました。

吉野川第十堰の今昔、可動堰化計画に対する住民運動の起こり(1993年)から、住民投票条例制定要求署名運動(1998年)可動堰化の是非を問う住民投票(2000年)、そして緑のダム構想

(2001年)までを当時の資料から振り返る説明用のパネルの他、新聞スクラップや写真アルバム、当時のポスター、新聞スクラップ、集会イベント用の法被やTシャツなど約70点が並べられました。今回のパネル展では、労働福祉会館の会員団体をはじめ、関係団体など、一般来館者を含めて約85名の方が訪れました。



今回のパネル展の展示資料は「1億2千万のヒーローフェスタ実行委員会」より提供して頂いたものです。「1億2千万のヒーローフェスタ」は、2000年1月23日の吉野川第十堰の可動堰化の是非を問う住民投票から20年、そして2019年2月24日の辺野古米軍基地建設のための埋め立ての賛否を問う県民投票から1年、この二つの住民投票を繋ぐ民主主義の祭典であり、同委員会は2月1日(土)～2日(日)にかけて万代中央ふ頭にて、講演・音楽・上映会・フード・アートなどのイベントを開催し、そちらも多くの来場者で賑わいました。



※この写真は「1億2千万のヒーローフェスタ」パネル展の様子です。

5) 第16回公開講座(2020.5.16) ※延期

「第二世代からみた全共闘運動(仮題)」

講師 小杉 亮子 氏 (日本学術振興会特別研究員ほか、文学博士)

※新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発令により開催延期

4. 部落史資料作成に関する協議

《開催日程》

◇第18回協議 2019.4.22 ◇第19回協議 2019.5.7 ◇第20回協議 2019.8.19

《協議メンバー》

関口寛(四国大学), 長谷川賢二(徳島県立博物館), 生駒佳也(徳島県立図書館)

久積育郎(センター長), 中野輝行(運営委員), 藤原学(法人理事長)

《主な協議事項》

1. 徳島の部落史年表及び社会運動史年表のまとめ
2. 聞き取り調査
3. 公開講座の開催
4. 冊子の作成

5. 徳島社会運動史研究会の開催

《開催日程》

- ◇第1回 2019.10.18 ◇第2回 2019.12.09 ◇第3回 2020.02.10 ◇第4回 2020.03.16
- ◇第5回 2020.04.13

《協議メンバー》

関口寛(四国大学), 長谷川賢二(徳島県立博物館), 生駒佳也(徳島県立図書館)
久積育郎(センター長), 中野輝行(運営委員), 藤原学(法人理事長)

《主な協議事項》

1. 調査研究課題の設定
2. 『井藤正一日記』復刻版の作成、「証言集」の作成
3. 講演録及び年表冊子の作成
4. その他

6. 徳島社会運動史研究会の研究課題

1) 調査研究課題の設定について

1. 徳島社会運動史研究会の設置要綱

- (1) 名称は、とくしま社会運動資料センター・社会運動史研究会(略称、徳島社会運動史研究会)とする。
- (2) 調査・研究テーマは、運営委員会から示された案件について事業計画を示して調査研究し、運営委員会に経過報告を行う。
- (3) 研究者の任免は、資料センター長が行い、運営委員会に報告する。
- (4) 調査・研究期間は、1年間とする(4月1日より翌年の3月31日)が、運営委員会の承認により、複数年間とすることもできる。
- (5) 事務局は、資料センター内に設置する。
- (6) この要綱は2019年4月1日より適用する。

2. 当面の事業計画

- (1) 徳島県部落史研究会を社会運動史研究会の中で引き継ぐこととし、今後の部落史研究を継続する。研究者については、当面は(部落史冊子の完成までの間)部落史協議の生駒・長谷川・関口各氏に引き続きお願いするが、部落史協議の開催は3~4月に1回の予定で開催する。
- (2) 部落史以外の社会運動史の調査・研究は、運営委員会の示された案件を別記要綱により行うが、研究者については、当面は、生駒・長谷川・関口各氏に引き続きお願いし、他の研究者についてはその都度協議する。

2) 研究テーマの設定について

1. 研究テーマ

テーマは『徳島の様々な社会運動や先駆者』とする。具体的に調査研究課題を設定する基準

は、2018年2月26日開催の「部落史資料作成に関する第8回協議」で、「社会運動の定義については様々なものがあるが、概略的には『社会問題の解決や、社会制度そのものの改良・変革を目的として行われる運動』とし、具体的には大原社研『社会・労働運動第年表』を参考に次のように整理した。

「3.<労働運動>欄の①労働組合、②労働争議、③労働金庫など労働者福祉運動、④その他<俸給生活者>運動、⑤産業報国運動など」、「4.<社会運動>欄の①1945年8月以前の無産政党、②労働組合以外の大衆組織の動向、③米騒動や原水爆禁止運動、安保闘争などの大衆闘争、④農・漁民運動、⑤婦人運動(女性)、⑥青年・学生運動、⑦部落解放運動、⑧公害反対・環境保全運動、⑨医療運動、⑩社会保障運動、⑪人権擁護運動(障がい者解放。未熟児網膜症裁判闘争など)、⑫文化運動、⑬在日外国人の運動、⑭右翼運動、⑮<官製>社会運動、⑯その他の市民運動(ラジオ商裁判等)」、「5.<社会・文化>欄の⑧労働災害、⑨職業病・疾病(労働安全センター等)」

2. 研究対象

具体的な研究対象は、上記の基準を参考に研究対象の参考例として次のような事例が挙げられる

- ・戦前戦後の小作争議と農民運動(小作争議と農民組合、戦後の農地改革と農民運動など)
- ・戦前戦後の労働争議(戦前一塩田、福島木工、那賀川筏など 戦後一徳島造船、全金、船井電機、マル生、平和製紙、大鵬薬品など)
- ・戦後の労働運動(勤評、県立中央病院看護婦夜勤、労働者福祉、郵政マル生粉碎、県職労年休裁判、国鉄の分割・民営化、県労評解散・連合発足、など)
- ・住民運動(阿南市石油基地立地、那賀川町の石油立地、海南町の原発建設、細川内ダム建設、吉野川第十堰建設、赤潮、阿南大阪製鋼誘致、阿南原発、非核平和を守る市民の会、徳島市議会海洋パーク問題、大田県知事誕生と失職、など)
- ・ハンセン病 ・メーデーの歴史 ・森永ヒ素ミルク事件 ・徳島ラジオ商事件
- ・セクハラ問題
- ・国際交流(烏雲先生の支援 連合徳島と丹東交流 労福協と庫倫旗、など)
- ・反戦平和のたたかい(警職法、60年安保、政防法、原潜・日韓、ベトナム反戦、8/15・10/21・12/8反戦集会、2・11反天集会、反戦青年員会、医学部スト・大学立法反対スト、公害防止条例、解放同盟と解放共闘、70年安保と沖縄、狭山闘争、部落解放徳島地方研究集会、ちびっ子ヤング大会阻止行動、那賀郡などの軍機低空飛行の中止、PKO粉碎、自衛隊海外派兵、有事法制、など)

3. 調査研究期間

2019年12月～2021年12月の約2年間とする

4. 研究者の補充

設置要綱に基づき任免する

5. テーマの設定

テーマの設定は、運営委員会からの要望・意見も踏まえ、次回研究会で確定する

7. 周知広報

1) 新聞紙面に告知掲載

★とくしま社会運動資料センター公開講座 6月1日10～12時、徳島市の県労働福祉会館。「徳島の被差別民と芸能文化―阿波の箱まわしを中心に」と題し、芝原生活文化研究所の辻本一英さんが話す。参加無料。申し込み不要。同館☎088(602)0532。

★とくしま社会運動資料センター公開講座 7日10～12時、徳島市の県労働福祉会館。「徳島から見た近代の部落史研究」と題し、四国大の関口寛准教授が話す。参加無料。同館☎088(602)0532。

★とくしま社会運動資料センター公開講座 16日10～12時、徳島市の県労働福祉会館。同センターの久保育郎さんが「徳島における戦後社会運動の特徴」、県立図書館の生駒佳也さんが「徳島における戦後の教職員運動」の演題で話す。参加無料。同館☎088(602)0532。

★とくしま社会運動資料センターパネル展 23～30日10～15時(24日は12時まで、26日は12時から)、徳島市の県労働福祉会館。「吉野川第十堰(げき)の可動堰化計画と住民投票」をテーマにパネルを展示する。入場無料。25日休み。同センター☎088(602)0532。

2) チラシの作成・配布



3) ホームページ上に告知掲載



8. 機関誌の発刊

資料センター通信 Vol.8 (2019. 4. 5)、Vol.9(2019. 9. 10)、Vol.10(2020. 3. 5)



9. その他



左:徳島新聞 2020.01.23 右:同 01.24

1. 事業目的と事業概要

- 《目的》 『支え合い』『家族の絆』等をテーマとして、木工教室、切り絵、おもちゃ教室、映画会、ブース出店、絵画の募集と表彰などのイベントを行う。
- 《対象》 一般の方誰でも可とした。
- 《期間》 8月21日
- 《財源》 自主財源から拠出した。
- 《資産》 ヒューマンわーくびあ徳島
- 《人員》 専従職員および臨時職員が従事した。
- 《案内》 チラシを作成して館内に掲示し、ホームページに告知掲載した。
- 《内容》 ”県内勤労者の拠点”である会館で『支え合い』『家族の絆』等をテーマとした無料参加のフェスタを行うことは、「勤労者の福祉の向上を目的とする事業」に関連すると考えられる。運動方針でもある”地域に開かれた会館づくり”の一環として、無料参加のフェスタを行うことは、「地域社会の健全な発展を目的とする事業」に関連すると考えられる。

広く一般の方が参加可能とし、無料とした。地域へのチラシ配布、新聞紙面への広告、ホームページに掲載等、広く周知を行った。

それぞれの分野のNPO・ボランティア団体と連携し、木工、絵手紙、おもちゃ教室等を出店した。

2. 各イベントについて

夏の恒例イベント「2019 地域ふれあいフェスタ in わーくびあ」が、8月18日（日）、ヒューマンわーくびあ徳島にて開催されました。今年で6回目を数え、「地域の支え合い」「家族の絆」をテーマに、NPO・ボランティア団体などの協力のもと様々な子ども向けイベントが行われました。台風一過、お天気にも恵まれ、例年より多い約230名の方が来場しました。

大人気の陶芸教室、木工教室は、開場直後から予約でいっぱいとなりました。スタッフの指導のもと、子ども達は熱心に木製ティッシュケースや陶製の容器を作りました。また絵手紙教室では親御さんも一緒になって筆を走らせていました。

親子撮影会は常時順番待ちの状態。カメラマンの巧みな誘導により親子とも最高の笑顔でカメラに収まっていました。「フードバンクとくしま」による人形劇では、本来お客さんである子ども達が演者となり、スタッフと一緒に劇を演じ、バルーンアートでは巧みな風船の技に見入っていました。

一方、懐かしのゲームコーナーでは、ファミコン、スーパーファミコンの復刻版が人気を集め、父と息子、親子でマリオカートを楽しむ姿が微笑ましく思えました。

その他、クレエール、いのちのさと、キノコハウス、ひまわりによる飲食コーナー、リサイクルショップ a・ya の小物販売など、各コーナーとも賑わい、4時間があっという間に過ぎました。

＜ブース一覧＞	
親子陶芸教室	だいやま陶芸村
絵手紙教室	福井さん他 (日本絵手紙協会公認)
バルーンアート	森奥さん他(ハッピーズ)
懐かしのゲーム	会館事務局
人形劇	フードバンクとくしま
親子木工教室	フレッセ、壮生
親子の無料撮	スタジオ・サークル
出店コーナー	Creer
	きのこハウス
	いのちのさと
	リサイクルショップ a・ya
	ボランティア友の会ひまわ

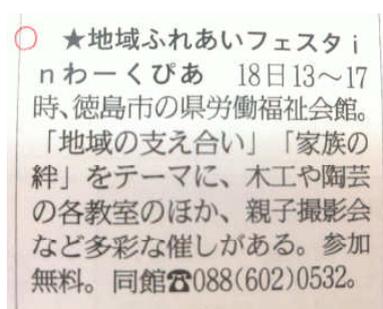


3. 周知広報

1) 新聞紙面に告知掲載



2) チラシの作成・配布



3) ホームページ上に告知掲載

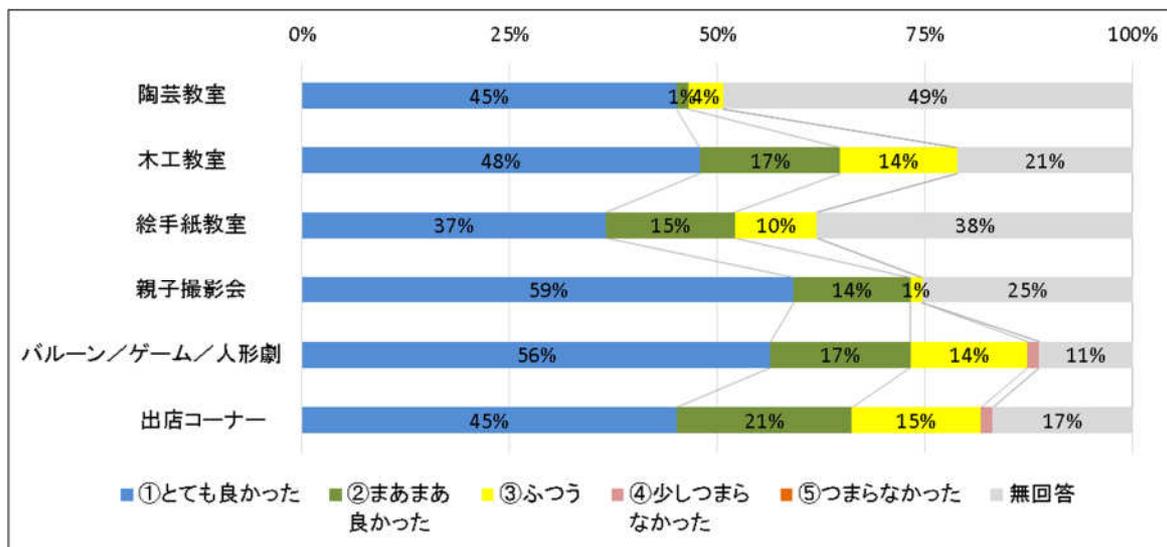


4. アンケート結果

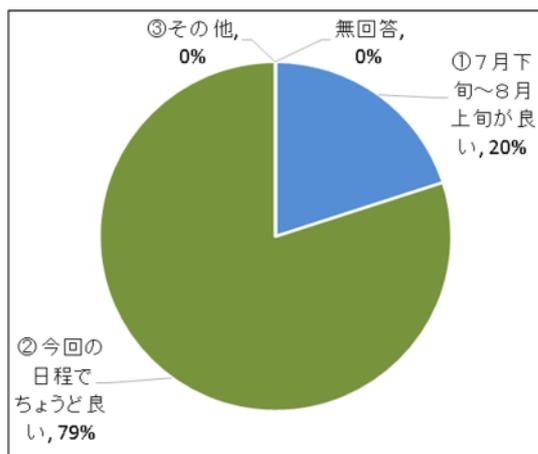
参加者アンケート結果

回答数者 71 人

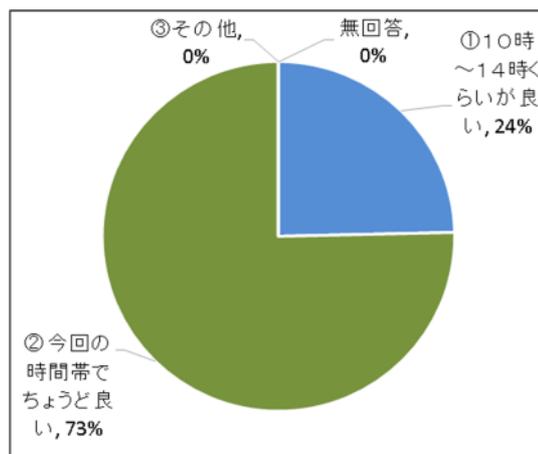
【1】 各イベントはどうでしたか？



【2】 日程はどうでしたか？



【3】 時間帯はどうでしたか？



【4】 自由意見欄

《良かった点》

●また来年も絶対に来たい。●楽しかった。●遊べるコーナーや休憩コーナーもあり子供は大満足。●毎年楽しみに来ています。●陶芸をやさしく教えて下さり良かった。●木工教室は子どもでも作りやすくしてくれていた。●ゲームコーナーの順番待ちも丁度良かった。●色々な経験ができた。●絵手紙は貴重な機会良かった。●毎年楽しみにしています。●ありがとうございました。●手作りの輪投げやボーリングもしてみてもいい？●休憩コーナーやドリンク、お菓子のサービスはとても嬉しかったです。●親子撮影会はとても楽しかったです。

《悪かった点》

●(陶芸・木工について)もう少しできる人数を増やして頂けたらと思います。●食べ物のあるお店をしてください。ラーメン・うどん等。●もう少し幼児もできるイベントがあれば良かった。●駐車場がもっとあると嬉しいです。

2020年度事業報告

(1) 会館運営について

- ・一般社団法人への移行及び第2期中期経営計画の6年目である本年度は、一般社団法人としての法人運営を基本として、経営の健全化と安定化に努めました。
- ・業務用エアコンの法定点検、PCB使用安定器の調査(主に蛍光灯)を行いました。
- ・産業カウンセラー協会の新規入居に伴い、内装工事を行いました。
- ・改正消費税法の施行に伴い、会計処理等について消費税率 10%へと変更しました。
- ・引き続き受動喫煙の防止、エレベーター内のタバコ臭対策に努め、また植樹を行うなど環境への配慮、美化活動に努めました。
- ・非常階段の放置物を撤去、消防計画の見直しなど、館内の安全管理に努めました。
- ・消防訓練、普通救命講習等を実施しました。
- ・新型コロナウイルス対策に向けた入居団体連絡会議を開催しました。

(2) 管理業務委託について

- ・会館運営を効率的に行うため管理業務をNPO法人「壮生」に委託し、シニアのワークシェアリングによる働く場作りによる会館運営を行いました。
- ・わーくびあ運営に関するさまざまな課題に対しては、定期協議の他、随時運営事務局と連携し、日常的な事務局段階での話し合いで対応しました。
- ・今年度は業務委託契約の最終年度(2年契約)であるため、業務委託者の一般公募、選定審査、理事会承認を行い、新たに2年契約を締結しました。

(3) 法人運営について

- ・本年度は 1,960,000 円の会費収入がありました。
- ・2013 年度臨時総会の決議に基づく公益目的支出計画に従い、行政庁の監督のもと実施事業を行いました(※1)。公益目的財産額は、124,916,879 円(算定日 2014 年 3 月 31 日)であり、当該事業年度の公益目的支出の額は 3,467,817 円(※2)、当該事業年度の実施事業収入の額は 0 円、当該事業年度の公益目的収支差額は 20,259,924 円、当該事業年度末日の公益目的財産残額は 104,656,955 円となりました。

※1 社会運動資料センター事業及び地域ふれあいフェスタ事業の2事業のこと。[別冊:実施報告書]

※2 支出明細は 2019 年度正味財産増減計算書内訳表をご参照ください。

- ・会員数は 74 会員であります。

(4) 合併協議会について

- ・将来の新館建設を展望した検討委員会答申に基づき、公益社団法人労働者福祉協議会との法人統合(合併)へ向けた準備を進めました。具体的には、合併協議会を設置し(計5回の開催)、合併へ向けた諸課題について協議を行いました。そして本年1月9日、両法人の第3回理事会に於いて、労福協との合併契約書(案)及び合併の関する覚書(案)の締結し、変更認定申請に係る公益認定等審議会(事前審査)への説明資料を県に提出しました。[別紙]

(5)建設準備会について

・第4回理事会(2020.3.17)に於いて新館建設準備会を設置し、3月31日に第1回準備会を開催しました。同時に、準備室を設け専従スタッフを配置し、入居団体アンケートを実施しました。

(6)財務状況について

・本年度の総資産は、流動資産計64,685,219円、固定資産168,758,250円、合わせて

233,443,469円となりました。また総負債は、流動負債計44,677,910円、固定負債37,578,987円、合わせて82,256,897円となりました。差引、正味財産が151,186,572円であります。

・本年度の経常収益は53,153,363円、うち会費収入1,960,000円、事業収益49,533,986円、事業外収入1,659,377円となりました。経常費用は、5,252,892円の減価償却費を含めた事業費が37,267,926円、管理費8,961,162円、合わせて46,229,088円となりました。法人税等1,278,800円を計上し、当期一般正味財産増減額は5,645,475円となりました。

・四国労働金庫から27,981,740円を借り入れしていますが、今年度は4,763,833円の返済を行いました。その結果、借入残高は23,217,907円となりました。尚、徳島県及び徳島市よりの借入金は既に完済しているため、理事会の決議(2019.3.19)に基づき、今年度も1,200,000円の繰り上げ返済を行いました。

(7)労働者福祉運動の支援について

・労福協を中心として実施された様々な労働者福祉事業に協力し、積極的に参加しました。

・シニアライフを支援するNPO法人「壮生」の活動として、折り紙教室、パソコン講座等を開催しました。

・障害者の就労支援として、駐車場管理を引き続きNPO法人「徳島県腎臓病協議会」へ再委託しています。

・障害者の自立支援を行うNPO法人「Creer」の活動として、お弁当の館内販売を行いました。

・同じく障害者支援を行うNPO法人「いのちのさと」、NPO法人「きのこハウス」、学校法人「光の村学園」による野菜・お菓子等の館内販売を行いました。

・労働者自主福祉推進員養成講座、ごみゼロ阿波踊り大作戦などに参加しました。

・自殺予防活動協力機関として、講演会、研修会、街頭啓発活動に参加しました。

・「いきいき安心とくしま子ども食堂」「フードバンクとくしま越年支援」に、それぞれ協力しました。

・新型コロナウイルス感染拡大による学校閉鎖に伴い、子育て中の館内勤労者のために「わーくぴあ広場」を開設しました。3月11日から4月6日まで16日間、4月13日から5月1日までの13日間、9時～17時の間、1日平均6～7名(最大9名)のお子さんを預かりました。労働者福祉6団体及びNPO法人「壮生」の協力により学習支援スタッフ、生活支援スタッフを常時配置し、衛生管理、安全管理に努めました。

(8)公益目的事業について

・社会運動資料センター事業

公益目的支出計画に基づく事業として社会運動資料センター事業を実施しました。賀川豊彦

をはじめとする社会運動に関する資料、とりわけ団塊の世代の書籍・資料の収集を図り、同時に公開講座を開催しました。具体的には、運営委員会を設置し、センターの運営や資料の選別については専門家の助言を得て行いました。収集した資料は室内に展示し、一般の方誰でも閲覧可能としました。公開講座はチラシを作成して館内に掲示、またホームページや新聞に告知掲載しました。公開講座は計3回、パネル展は計1回開催し、他、研究会を開催しました。

・地域ふれあいフェスタ事業

公益目的支出計画に基づく事業として地域ふれあいフェスタ事業を行いました。今年度も『支え合い』『家族の絆』等をテーマとして、親子陶芸教室、親子木工教室、絵手紙教室、親子の無料撮影会、人形劇、飲料・軽食・小物販売コーナーなどの家族向けイベントを8月に開催しました。広く一般の方が参加可能とし、参加無料としました。広報については、地域へのチラシ配布、新聞紙面への広告、ホームページに掲載等、広く周知を行いました。

[別冊:実施報告書]

2. 活動記録

日時	内容	備考
2019年		
6 19	労働会館第6回通常総会	502号室
〃	労福協第9回定期総会	〃
20	フードバンク通常総会	〃
7 1	合併準備会<8>	302号室
9	共同デスク編集委員会	労福協会議室
29	徳島県との情報交換会	志美津
8 2	労働者福祉の拡充に向けた6団体会議	労福協会議室
5	四国部落史研究協議会夏季研修	鳴門市賀川豊彦記念館
8	徳島地方自治研究所2019年度通常総会	自治労プラザ
12	ごみゼロ阿波踊り大作戦2019	市役所北 旧エアトラベル前
18	地域ふれあいフェスタ2019	ヒューマンわーくびあ
19	合併協議会<1>	502号室
〃	部落史研究会<20> ★	資料センター
20	県民と働く者のフェスタ2019 発足会	502号室
9 7	第14公開講座 ★	5階大ホール
11	県民と働く者のとくしまフェスタ2019 第2回実行委員会	502号室
14	壮生創立10周年記念式典並びに会員交流の集い	徳島グランヴィリオ
28	第59回いのちとくらし・平和を守る女性集会	阿波銀ホール 5F 会議室
21	烏雲先生里帰り歓迎交流会	阿波観光ホテル
26	合併協議会<2>	502号室
28	第2期労働者福祉推進員養成講座<1>	シビックセンターさくらホール
10 18	社会運動史研究会<1> ★	資料センター
19	第2期労働者福祉推進員養成講座<2>	鳴門市賀川豊彦記念館
21	庫倫旗第一中学代表団歓迎と交流の夕べ	〃
29	西部会館協幹事会	愛媛県
31	合併協議会<3>	601号室
11 2	県民と働く者のとくしまフェスタ2019 開会式典	5階大ホール
〃	全国大学同和教育シンポジウム	高知県
10	飯泉嘉門 徳島県知事を励ます会	クレメントホテル
16	第15回公開講座 ★	〃
〃	第12回運営委員会 ★	302号室

	21	労福協 第2回理事会	502号室
	〃	労働福祉会館 第2回理事会	〃
	30	第2期労働者福祉推進員養成講座<3>	ろうきんホール
12	5	合併協議会<4>	601号室
	9	社会運動史研究会<2> ★	資料センター
	7	第1回民雄忌	ロイヤルガーデンホテル
	11	2019年度第1回防火訓練	502号室
	13	労働者福祉に関する知事要請	徳島県庁
	24	労働者福祉に関する市長要請	徳島市役所
	26	合併協議に関する説明会	302号室
	27	仕事納め	
	28	フードバンク年越支援	大ホール
2020年			
1	7	NETWORK2020新年会	グランヴィリオホテル
	8	連合徳島 新年互礼会	ワシントンホテル
	9	労福協 第3回理事会	502号室
	9	労働福祉会館 第3回理事会	〃
	14	連合徳島ユニオン共済説明会	グランヴィリオホテル
	15	公益認定等審議会へ事前提出	県法制文書課
	19	全県に広げよう あわ〜ず徳島の輪	ホテルクレメント徳島
	23	第6回パネル展 ★	大ホール
2	1	1億2千万のヒーローフェスタ	万代ふ頭
	3	四国労働金庫との協議	労金営業本部
	10	社会運動史研究会<3> ★	資料センター
	17	公益認定等審議会懇親の場	徳島県庁
	19	労働者福祉に関する六団体会議	労福協ミーティングルーム
	20	合併協議会<5>	601号室
	〃	西部労福協第50回定期総会	高松市ホテルパールガーデン
	21	四国労働金庫との協議	労金営業本部
3	2	合併協議に関する説明会<2>	302号室
	16	社会運動史研究会<4> ★	資料センター
	17	労働福祉会館第4回理事会	502号室
	24	労福協第4回理事会	502号室
	31	新館建設準備会	502号室
	25	「わーくびあ広場」意見交換会	5F大ホール
	27	わーくびあ徳島の運営に関する定期協議	理事長室
	31	新館建設準備会<第1回>	502号室
4	13	社会運動史研究会<5> ★	資料センター
	14	四国労働金庫との協議	労金営業本部
	15	わーくびあ広場の運営に関する打合会議	5F大ホール
	20	資料センター第13回運営委員会 ★	大ホール
5	14	第5回理事会	502号室
	15	新型コロナウイルス対策に向けた入居団体連絡会議	502号室
	16	第16回公開講座 ★	大ホール ※延期
	18	会計監査	大ホール
	26	労働福祉会館第6回理事会	502号室
	〃	労福協第5回理事会	〃
6	15	労働福祉会館第7回通常総会	〃
	〃	労福協第9回定期総会	〃

注) 不参加行事も含めています。★は公益目的事業。